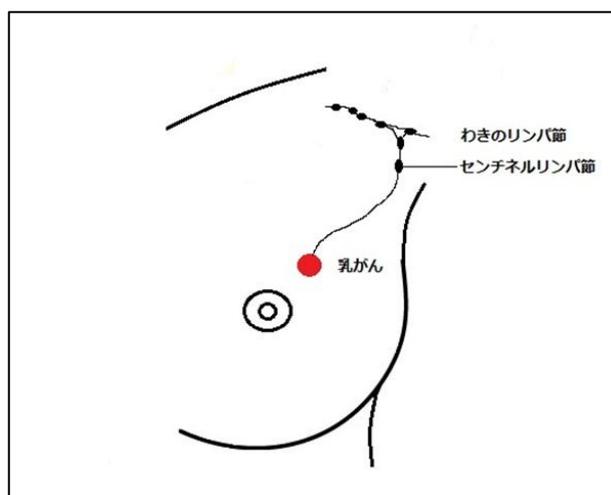


造影CTと造影MRIを用いたリンパ節転移診断によるわきの手術の回避

大阪急性期総合医療センター 乳腺外科

乳がんの手術として、わきのリンパ節全摘手術(郭清)がかつて広く行われていましたが、術後腕のむくみや神経障害などの後遺症に悩まされることもまれではありませんでした。そこで、治療成績は同じで最小限のリンパ節を切除する手術が考案され、標準的に行われるようになりました。「センチネルリンパ節」は乳がんが最初に転移するわきの第一リンパ節で、これを摘出し、調べて転移がなければ他の第二、第三のリンパ節には転移はないので郭清を回避できます。この第一リンパ節のみを切除する手術がセンチネルリンパ節生検です。しかしながら、体に負担の少ない手術とはいえ、わきにメスを入れることになりまので手術の後に傷の痛み、しびれ、腕のむくみなどを生じることがあります。そこでもし手術の前に画像診断でセンチネルリンパ節に転移がないと診断できれば、センチネルリンパ節生検の手術も不要のものとなり、これによる後遺症も生じません。



私たちはこれまで造影CTで画像上センチネルリンパ節を特定し、これについて造影MRIで転移診断が可能かどうか検討を重ねてきましたが、その結果、正確な診断が行えることが明らかになりました。そこでこの方法を用いて手術の前に転移診断を行い、転移がないと診断された患者さんにわきの手術(センチネルリンパ節生検)を回避する治療法を開始しました。これまで全体の約7割の患者さんはセンチネルリンパ節に転移がないにもかかわらずセンチネルリンパ節生検が行われてきましたが、この方法で回避できます。

本治療法は現時点で標準治療ではありませんので、臨床試験という形で行っています。したがって本治療法を受けていただく際には、十分ご理解、ご同意をして頂いた上で行います。

お問い合わせは乳腺外科までお願いいたします。